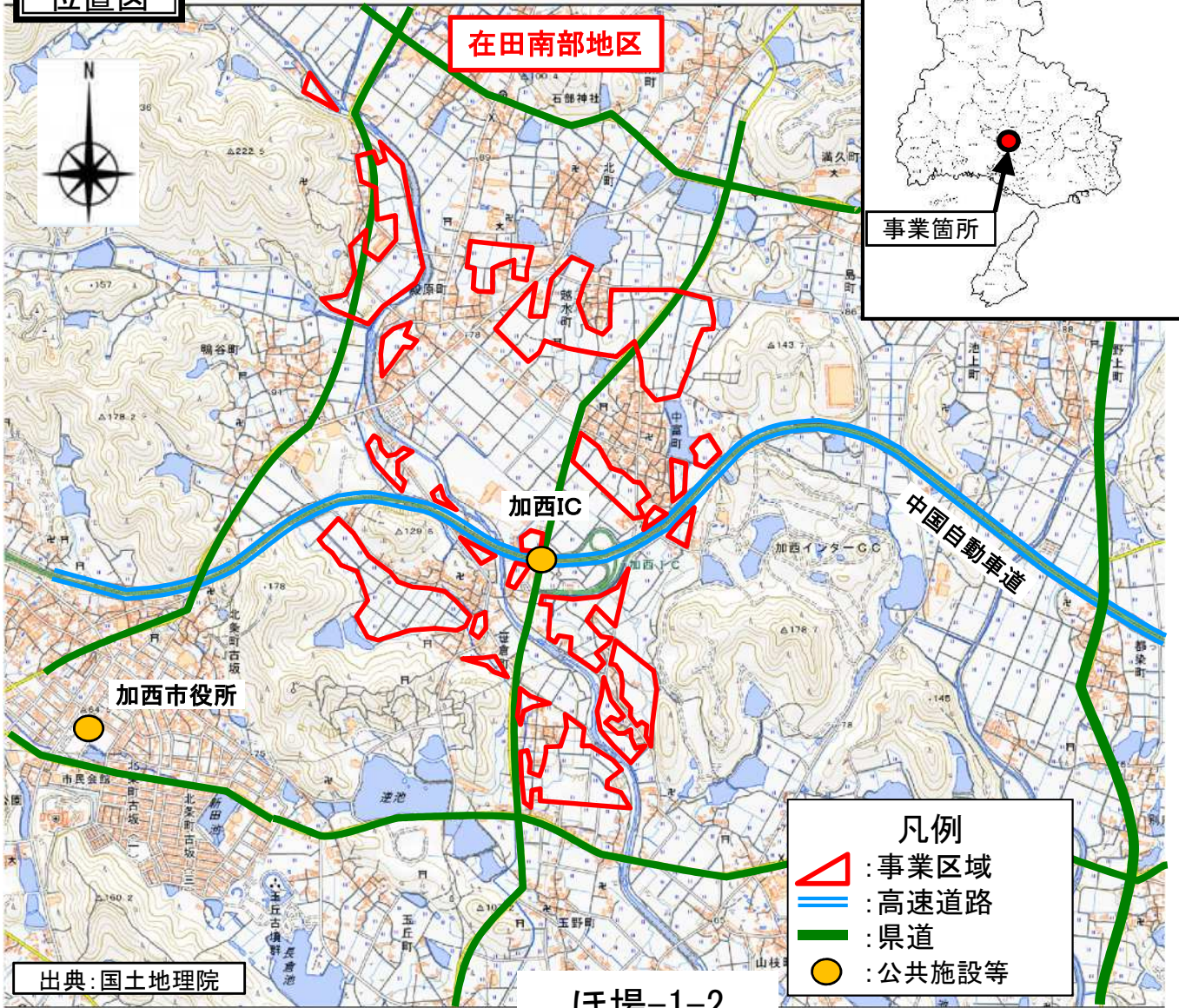


令和5年度 投資事業評価調書（新規）

部課室名	農林水産部 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	農地整備課長 三輪 颯 (基盤整備班主幹 戸田久雄)	内線	4003 (4041)	
事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着手予定年度	完了予定年度
ほ場整備	ありたなんぶ 在田南部地区 農地整備事業	加西市中富町ほか	32.0億円	—	令和6 (2024)年度	令和14 (2032)年度
事業目的			事業内容			
本地区は加西市中部に位置する平地農業地域であり、農家の減少及び高齢化に対応するため、地区内外の担い手へ効率的な農地の利用集積を進めるとともに、担い手による水稻生産の効率化、高収益作物の生産拡大を図り、持続可能な地域農業を推進するため、農地の区画整理を行う。			・区画整理 80.7ha ・事業主体 兵庫県 [負担割合 国：50.0%、県：27.5% 市：10.0%、地元：12.5%]			
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性	ほ場は狭小・不整形で農道は狭く、大型機械化による効率的な営農を行うためには、耕作条件の改良が不可欠である。計画では、区画の拡大とともに用水をパイプライン化、自動給水栓を導入し、法面草刈り作業の機械化を図るため幅広畦畔・管理溝畔とするなど、機械化による作業が可能なほ場とする。					
			現状	計画		
	ほ場条件 (未整備)	区画：平均7a（水田・畑） 用排水路：コンクリート・土水路 道路：幅員0.9～3m	区画：標準50a以上（輪換田） 用水路：パイプライン＋自動給水栓 排水路：コンクリート水路（一部管水路） 道路：幅員5m 暗渠排水			
	ほ場条件 (二次整備)	区画：標準30a（水田・畑） 用排水路：コンクリート 道路：幅員3～4m				
	経営体	個人：225戸(76.1ha) [担い手] 集積率13.5% 農事組合法人：1法人(3.8ha) 集落営農組織：3組織(8.1ha)	個人：10戸(3.4ha) [担い手] 集積率 95.8% 農事組合法人等：5法人(77.3ha)			
	農業生産 (主なもの)	水稻：52.5ha, 飼料用稲：5.6ha 酒米：4.7ha, 黒大豆：5.2ha 小豆：0.1ha, 小麦：4.9ha ブロッコリー：0.2ha, ジャガイモ：0.2ha	水稻：27.6ha, 飼料用稲：10.1ha 酒米：4.7ha, 黒大豆：16.4ha 小豆：14.5ha, 小麦：43.9ha, 玉葱：4.3ha ブロッコリー：1.2ha, ジャガイモ：1.0ha			
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)	加西市、加西商工会議所、JA兵庫みらいの三者で組織する加西ブランド協議会及び観光協会と連携し、農産物のブランド力を向上させ、直販を拡大する。さらに、隣接する加西インター産業団地で食品加工業を誘致しており、地域内で農業生産・加工を一体的に行うことにより、農業経営の安定と拡大を図ることとしている。 費用便益費 B/C=1.5 (3,913 百万円/2,686 百万円)					
		年効果額	説明			
	作物生産効果 (農作物生産量の増減)	13,220千円	水稻(酒米・飼料用稲含)：317.8t⇒220.5t(30.6%減) 黒大豆・小豆：4.8t⇒28.0t(483%増) 玉葱：0t⇒242.0t(皆増)			
	営農経費節減効果 (営農経費の節減)	205,817千円	10a当りの作業時間 水稻：34.5hr⇒8.0hr(76.8%減) 黒大豆：37.1hr⇒9.7hr(73.9%減)			
	維持管理費節減効果 (施設の維持管理費の増減)	1,149千円	農道及び用排水施設の整備による維持管理費の節減			
	合意形成が図られ（同意率100%）、営農の集約に向けた話し合いを進めている。					
(3) 環境適合性	事前の環境調査に基づき、ヒメミズワラビを保全するとともに両生類・魚類・水生昆虫の棲息空間確保のため排水路の一部をよどみや這い上げられる構造とする。					
(4) 優先性	これまで狭小・不整形なほ場で非効率な営農が行われてきたが、近年、地域において営農継続への危機感の高まりから、既存集落営農組織を法人化して都市近郊の立地を活かした多様な野菜と麦・大豆の生産を拡大し力強い農業へ転換を図ることとしたため、早期にはほ場整備に取り組む必要がある。					
【事後評価】 対象・ 対象外	事業計画において営農形態の似通ったたつの東部地区において事後評価を実施するものとし、本地区については事後評価の対象外とする。					

ありた なんぶ
ほ場整備事業 在田南部地区

位置図



目的

本地区は加西市中部に位置する平地農業地域であり、これまで家族経営による水稲を中心とした営農が行われてきたが、農家の減少及び高齢化に対応するため、地区内の担い手へ耕作を委ねていこうとしている。
効率的な農地の利用集積を進めるとともに、担い手による水稲生産の効率化、高収益作物の生産拡大を図り、持続的かつ儲かる農業に取り組んでいく。

事業概要

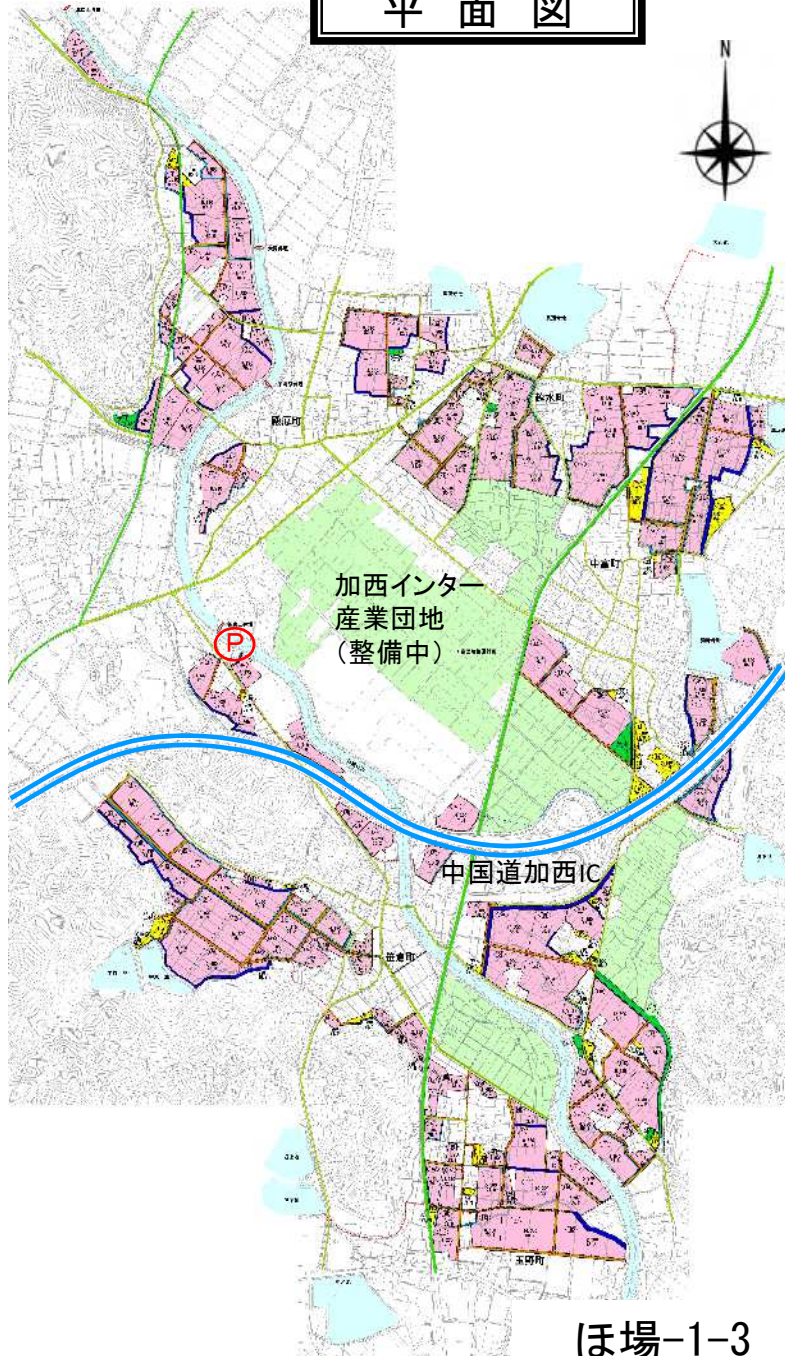
事業概要：区画整理 80.7ha
(関係戸数292戸)
所在地：加西市中富町、殿原町、越水町、
笹倉町、玉野町
事業期間：R6～R14
総事業費：32.0億円
事業主体：県
費用便益比：1.5

工程表

	令和6	7	8	9	10	11	12	13	14	
実施設計	■									
埋蔵文化財調査	■		■							
区画整理工			■							
その他(換地等)	■									

出典：国土地理院

平面図

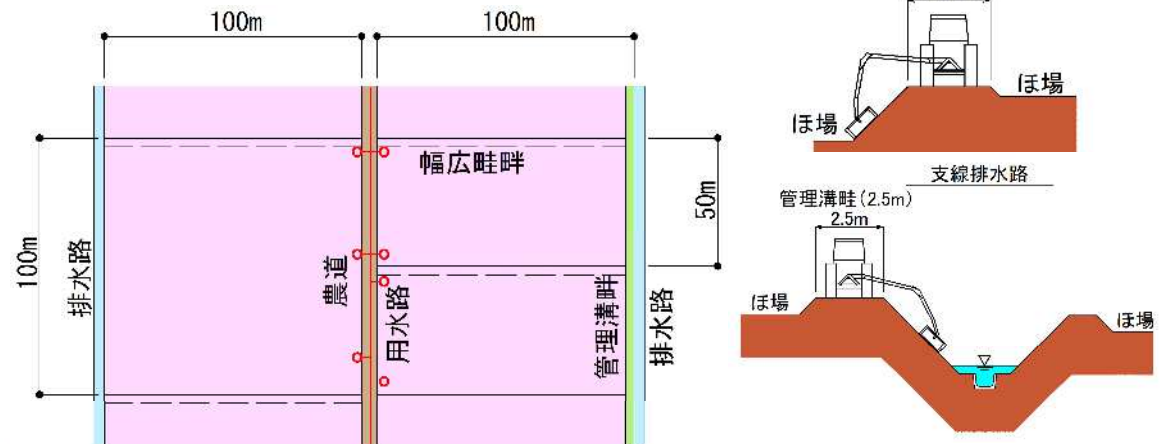


ほ場-1-3

事業の必要性・有効性

加西市、加西商工会議所、JA兵庫みらいの三者で組織する加西ブランド協議会及び観光協会と連携し、農産物のブランド力を向上させ販売の拡大を目指している。
 また、隣接する加西インター産業団地で食品加工業を誘致し、地域内で農業生産と加工を一体的に行うことにより、農業経営の安定と拡大を図ることとしている。
 このため、ほ場整備と合わせ担い手への農地集積を進めていく必要がある。

標準区画割図・標準断面図



	現状	計画
ほ場条件 (未整備)	区画：平均7a (水田・畑) 用排水路：コンクリート・土水路 道路：幅員0.9~3m	区画：標準50a以上 (輪換田) 用水路：パイプライン+自動給水栓 排水路：コンクリート水路 (一部管水路)
ほ場条件 (二次整備)	区画：標準30a (水田・畑) 用排水路：コンクリート 道路：幅員3~4m	道路：幅員5m 暗渠排水
経営体	個人：225戸 (76.1ha) [担い手] 集積率13.5% 農事組合法人：1法人 (3.8ha) 集落営農組織：3組織 (8.1ha)	個人：10戸 (3.4ha) [担い手] 集積率 95.8% 農事組合法人等：5法人 (77.3ha)
農業生産 (主なもの)	水稲：52.5ha, 飼料用稲：5.6ha 酒米：4.7ha, 黒大豆：5.2ha 小豆：0.1ha, 小麦：4.9ha ブロッコリー：0.2ha, シヤガイモ：0.2ha	水稲：27.6ha, 飼料用稲：10.1ha 酒米：4.7ha, 黒大豆：16.4ha 小豆：14.5ha, 小麦：43.9ha, 玉葱：4.3ha ブロッコリー：1.2ha, シヤガイモ：1.0ha

(1)費用対効果

①便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
食料の安定供給の確保に関する効果	①作物の生産増に関する効果 ほ場整備により農業機械導入が可能になることや用排水路改良による反収の増加に伴い、作付面積や収量が増加する効果
	②営農経費の節減に関する効果 区画拡大及び道路・水路整備による農業機械の大型化や水管理の省力化に伴い、営農に係る経費が節減される効果
	③維持管理費の節減に関する効果 ほ場整備により農業用施設の維持管理に係る経費が節減される効果
農業の持続的発展に関する効果	④耕作放棄の防止に関する効果 ほ場整備による耕作条件の改善、労働環境の向上に伴い、耕作放棄の発生が抑制され、作物生産が維持される効果
農村の振興に関する効果	⑤地籍確定効果 区画整理の実施により区画の整形や確定測量が行われることで地籍が明確になる効果
	⑥非農用地等の創設に関する効果 区画整理及び換地による公共用地創設に伴い、公共用地を取得する用地買収事務に係る経費が節減される効果
その他の効果	⑦国産農産物の安定供給に関する効果 国産農産物が安定的に供給される安心感を国民が享受できる効果

②費用便益費(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)			C(費用)			B/C
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費		
				(百万円)	(百万円)	(百万円)		
ほ場整備	農地整備事業	①作物生産効果	227	農産物生産量の増加 黒大豆・小豆4.8t→28.0t	2,686	2,333	353	1.5
		②営農経費削減効果	3,536	労働時間の短縮 水稻34.5hr/10a→8.0hr/10a				
		③維持管費節減効果	20	施設整備による管理費増 揚水機場(2箇所)の新設				
		④耕作放棄防止効果	1	将来発生が予測される耕作放棄を防止				
		⑤非農用地等創設効果	8	市道用地の創出				
		⑥地籍確定効果	92	換地により地籍が確定する効果				
		⑦国産農産物安定供給効果	29	国産農産物の安定供給増				
		計	3,913					

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等	
多面的機能の発揮に関する効果	①地下水のかん養 水田が水田として利用され湛水されることで用水の一部が地下に浸透し、地下水のかん養を促進する効果	○	区画整理
	②農地や農村における災害の抑制 用水路と排水路の分離、法勾配の改善（緩傾斜化）、畦畔の強化、ほ場の湛水量の増などが図られ、洪水の防止・軽減により農地・農業用施設、農村の災害を抑制する効果	○	区画整理 用排水路整備
農業の持続的発展に関する効果	③農村の活性化 農作業の省力化や生産拡大により、農業所得の向上や若い担い手の定着が促進され、農村が活性化する効果	○	区画整理
農村の振興に関する効果	④地域交通の利便性向上 農道の整備により農業交通が安全に通行でき、また生活道路を兼ねる農道については、地域の利便性・安全性が向上する効果	○	農道整備

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域で話し合いを重ねた結果、集落営農組織の法人化を進めて地域内の農地を集積し、農業経営を継続するとともに儲かる作物を導入することを決定し、早期の事業実施について市へ強い要望が出された（事前同意率100%）。 ▶ ほ場整備により区画の大規模化、農業用水の管路化及び自動給水システム設置、幅広畦畔・管理溝畔とするとともに、ドローンや自動操舵農機を導入することにより、労働時間の大幅な軽減を図ることとしている。
-------	---